



東京多摩プロバスニュース

第 98 号



■事務局: 〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘 1-53-28 鈴木泰弘方 ■電話: 090-4846-7183

■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com> ■編集・発行: 広報委員会 2022. 1. 12.

共に学びながら、高齢化社会に貢献しよう

第 209 回 定例会

日 時 : 令和 3 年 11 月 10 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関・一つむぎ館 第 1 会議室

お客様 : 東京八王子プロバスクラブ

会長 河合和郎氏、交流担当 一瀬明氏

出席者 : 15 名 (会員数 : 22 名)

第 210 回 定例会

日 時 : 令和 3 年 12 月 1 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関・一つむぎ館 第 4 会議室

お客様 : 浅間山自然保護会

会長 山田義夫氏

出席者 : 15 名 (会員数 : 22 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



あけましておめでとうございます

俳句会会長 増山敏夫

俳句会は社会奉仕活動が句会誕生の動機でした。当クラブ草創期の或日、蓮池守一元会長(第一、二期)に東京都で指導主事仲間だった俳人の由利雪二氏(俳句結社からまつ主宰)から、「句会を当クラブに立ち上げてくれませんか」と相談があった。由利氏は東京多摩ロータリークラブ主催の記念事業「多摩市中学生俳句大会」の審査委員長を引き受けておられた。その選句作業の協力がないかという事だった。まずは俳句の勉強からということで、蓮池現会友を中心に当クラブの有志を募り勉強会が始まった。平成 18 年 8 月のことである。由利主宰(現名誉主宰)と助手の石川春兎氏(現主宰)による月一度の熱心な指導のおかげで 5 年後の平成 23 年より大会終了まで 7 年間、ロータリー



ークラブの記念事業への社会奉仕活動として、2600 余句の選句作業という実質的なお手伝いが出来たのである。

五・七・五、季語、芭蕉、子規、虚子等々。俳句の基本から歳時記の使い方、名句の名句たる所以等、なかでも「俳句は右脳です！」と度々ご注意を受けたことは忘れ難い。みな実業界で活躍した人ばかり、理屈で考える



奈良原公園橋:メタセコイア街路樹通りをまたぐ橋で奈良原公園から鶴牧東公園につながる。欄干から見るメタセコイアの紅葉は壮観である。

癖がなかなか抜けない。映像から作る訓練が勉強会の意味でもある。他人の句を鑑賞、自分の句を自解するのも客観性を養うためだった。手間暇のかかる事である。勉強会誕生から 15 年余、みな他の活動にも忙しい人ばかり、当初 15 名で始めたが、10 年後には 10 名程に減り、また近年は 5 名が他界され、現在は当クラブ以外のメンバーも加わり 7 名、指導体制は変わらぬ充実した句会を楽しみ、発足以来一度の休会もなく昨年末 173 回を数えた。蓮池会友は「からまつ」同人会長、登坂会員は同副会長の一人として頑張っておられる。

由利氏と蓮池会友との縁がなければ当クラブに俳句会は生れなかつただろうし、私の俳句もなかった。

まこと縁とは異なるものである。

1. 幹事報告

小林務幹事

令和3年はコロナに明けてコロナに暮れる例年に無く生活の全てがコロナ禍の影響が色濃く残り、複雑な心境で新年を迎えられた方々が多いと思います。今年こそは以前の普段の生活に戻る年になります様祈念します。

さて、令和3年度上期も終了しましたが、全ての活動も困難を極め中止延期の連続でしたが、令和3年度上期の活動につきましては下記の通り報告します。

1.1. 理事会；理事会の開催はコロナ禍に懸念しながらも計画通りに開催できました。

1.2. 定例会；7月、8月、9月は余儀なく中止、10月は定例会開催するもプロバスソングの斉唱は省略、会員お誕生祝いのバースデイソング、卓話、講話も遠慮しましたが、暫く振りの定例会が開催されました事に一同感謝。

1.3. 八王子プロバスクラブ特別例会；11月11日八王子日本閣にて開催され、当クラブから8名の会員が参加。
①八王子プロバス会員の手芸、絵画、写真、俳句、短歌、彫金等素晴らしい作品の展示に感動。②日本閣特製幕の内懐石料理の昼食。③八王子文化財課学芸員草間亜樹先生の日本遺産登録を記念して、「八王子桑都」物語講演に八王子の歴史と織物で栄えた往時の市民の生活振りと時代の変遷を感じました。④八王子芸者衆による唄と踊りに参加者一同感激。八王子芸姑の歴史に始まりバブル経済崩壊後、業界継続に対する努力、現在の八王子市内花柳界の復活に向けた芸姑の意気込み、普段のお稽古等大変興味深く拝聴。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

藤崎喬子委員長

- 第209回定例会：11月10日(水)、関・一つむぎ館、第1会議室、出席：15名
 - お客様挨拶：八王子プロバスクラブ河合和郎会長、一瀬明交流担当から全日本プロバス協議会総会開催支援の件
 - 入会式：渡辺ますみ会員
 - 堀内陽二会員の卒寿記念花束贈呈
 - 卓話：高村弘毅会長による「タクラマカン沙漠縁辺の自然と人」 詳細3頁参照
- 第210回定例会：12月1日(水)、関・一つむぎ館第4会議室、出席15名
 - 誕生祝い；渡辺ますみ会員
 - 講話：山田義夫氏による「府中浅間山むさし野の自然と花」 詳細4頁参照

2.2. 研修・親睦委員会

片倉満委員長

12月度の活動は1日(水)午後4時から開催した年末懇親会をサマリーレポート致します。

例年は年末の定例会終了後に忘年会でしたが、昨年はコロナ禍で中止でした。この12月では感染がかなりの終息の気配となり、感染予防を徹底し懇親会の形で実施しようとの各委員の合意で開催の運びとなりました。今回の懇親会は総務委員会と合同で準備・運営にあたりました。

当日の参加者は、定例会で貴重な講話を頂いた講師山田

義夫氏、ますます意気盛んな瀬尾日出男、大澤亘両会友も参加、総勢17名となりました。

昨年の1月から先月までは自粛ムードでしたから、会場の京王クラブ3階は笑い声が聞こえる当クラブの宴会場となりました。コロナ感染予防の観点から、立食ではなくテーブルでの会食で、和気あいあいにて進行了ました。

余興としてカラオケは中止し、代わりにビンゴゲームを企画、断捨離の境地に入られている参加各位が多い中、賞品には、予算等も考慮し、百キン店から酒肴のイワシの缶詰、柿の種、葉袋カレンダー、ポートレート写真盾、柱時計、クリスマスプレゼント菓子等多種用意し、笑いの多い賞品獲得の場面となりました。閉会の締めは、今年1月に卒寿を迎えられたお元氣な堀内陽二研修・親睦委員会副委員長長の挨拶にてお開き。参加の皆様、お疲れ様でした。



前列左から、山田氏、増山副会長、堀内会員、高村会長、小林幹事、大澤会友、後列左から登坂、伊藤、小島、澤各会員、瀬尾会友、鈴木、秋山、片倉、藤崎、北村各会員

2.3. 地域奉仕委員会

澤雄二委員長

12月1日に委員会開催、下記を決める。

- 1) 地域研究；「多摩の湧水」、「まいまいず」の現地調査を3月に行う。
- 2) 社会福祉協議会関係；①NPO団体の班会は2月から参加。②共同募金活動があれば参加。
- 3) シャンソンを聞く会；2月または3月に予定。

2.4. 広報委員会

登坂征一郎委員長

- 1) プロバスニュース第98号を1月12日(水)発行・配布。
- 2) 会員・会友各位からの寄稿は随時募集しています。
(私と多摩・我が故郷・私の趣味・私の一品・対外活動・旅行記・エッセイ等テーマは自由です)
- 3) ホームページの更新は上記ニュース発行後に予定。

2.5. 会員委員会

小林務委員長

新型コロナ感染の終息の見えたのも束の間、昨年末よりオミクロン株感染者が国内でも確認されまたまた不安の種が増してきた。当クラブ会員動向にも少なからず影響を及ぼし、会員の高齢化と合わせ会合の出席・交流等に感染不安を危惧してか、此処数カ月上旬に於ける退会者を含み休会若しくは会友に変更を希望された会員数名の届出があった。既に2年間に亘る新型コロナ感染が思わぬ処にダメージを与えていると考えます、今後全員で会員の増員拡大に尽力されます事をお願いします。

タクラマカン沙漠縁辺の自然と人

高村弘毅会長

件名の卓話が、映像(ビデオ)と解説で令和3年11月10日の定例会にて行われた。

○1989年、立正大学の高村弘毅博士が総隊長として、中国新疆ウイグル自治区のタクラマカン沙漠縁辺の調査探検の立正大学・新疆大学合同シルクロード踏査隊が結成された。調査は、タリム盆地縁辺でも未開放地があり、また重要な古代遺跡の存在、貴重な自然保護の観点から厳しい制約の中で行われた。



出発式の高村弘毅総隊長挨拶

映像の冒頭では沙漠の厳しさが紹介される。タクラマカン沙漠は「死の海」とも呼ばれている。

○高村先生は丸6年、この問題に真正面から取り組んでこられた。前年の調査で西半分の沙漠化が確認され、今度は東半部の沙漠化の拡大を調査する。新疆ウイグル地区出身のM隊員は、故郷の沙漠化を救うため研究を始め、この2年前に木の生えた砂丘に沙漠化を解くカギとなる年代を表す層があることを発見。○沙漠化の拡大と防止策には、政府はもとより現地の研究者も真剣に取り組んでいる。ウルムチの科学院からも協力を得、新疆大学から科学植物学の権威ある先生が加わり10人が2台の車に分乗し、1か月の調査に向かった。どこまで走っても沙漠、極度に乾燥した砂はひたひたと移動し、砂嵐は大量の砂をオアシスに向かって運ぶ。砂を舞い上げた風は次第に大きな力を持ち、砂嵐となって4、5日も続く。

○調査先で、同行の先生の知人Aさんは30年前に入植、木を植え、家や畑を砂から守って来たが、最近は砂が押寄せ、畑の乾燥が酷く作物が育ちにくいという。

Aさんは早速ため池からウイグル式のお茶をご馳走してくれた。ここでは水は、20日に一度の配給。この水は人や家畜、畑にも命の水である。M隊員はAさんの助けを借りて初めて砂丘の年代層を発見した。

○調査は、砂丘を掘って年代層を確認する。高さ3、4mの砂丘を削って断面を露出させるのにブルドーザーが欠かせない。気温は40度を超え、乾燥している。

年代層は、春～夏にかけて砂が飛ばされて来て層をなし、秋には砂の上に落葉が溜まり新しい層をなす。

毎年砂と葉の層が作られ砂丘が大きくなっていくと考えられた。M隊員はこの地で13の砂丘の年代層を見つけたという。表面の植物を刈り取り、砂丘を削り取る作業が始まった。高さ7m、周囲40mの大きな砂丘である。植物が生えている砂丘は風によって移動しない。そのために砂丘は動かないが年々大きくなる。



砂丘の年代層発掘作業と年代層

○M隊員は、年代層があれば沙漠化を測る正確な物差しになると考えた。また、動物の糞は科学的分析で何年前のものか解る。これと照合すれば砂丘の年代が解る。精力的な今回の調査の結果、年代層を確認した。

これにより、タクラマカン全域に普遍的に年代層が存在することが実証された。砂の粒子の調査でどこから砂が来たかが解る。高村先生考案のガムテープを利用した年代層の拓本で、砂丘の精密な調査ができる。

高村先生達は、砂丘の年代層の発見によって、砂丘がどのように拡大してきたかを研究する手段を得た。○しかしこの30年、沙漠の拡大の原因は何だろうと多くの学者は森林の伐採だという。

羊のスープで何とか元気をつけた。どの食堂にも薪が山のように積まれていた。薪は燃料や暖房用に利用。薪売りの車が何台も行き交う。ここでもシルクロードの人達の生活様式で今も殆ど変わっていない。



羊とナンを主食にしている。しかし、この辺境の地も物価高に悩まされている。羊は生活の糧、限られた土地に許容以上の頭数の羊が放牧され、牧草地が食べ尽くされて瞬間に沙漠化が進む。さらにオアシスの中のポプラを食べさせてしまう。また、燃料にオアシスのポプラを無秩序に伐採、広く地表面が乾燥し沙漠化が進んだ。○しかし、沙漠化は森林の伐採だけではない。上流、中流域にダムや灌漑用水路が作られ、耕地が拡大しこれが大きな原因の一つというのだ。

かつてはタリム川の支流が湿地帯を作り植物を育てて来た。開墾された上流域で多くの水が使われ、下流域まで水が届かなくなった。それが地下水位を下げ原生林が枯れ沙漠化が進んだという。

○しかし手を拱いていた訳ではない。ここでは独特の砂止め作業が行われていた。芦に似た植物を50cm程に切って碁盤目状に植えていく。砂抑えだけでなく植物の種が定着する効果があるかもしれない。だが、沙漠化の速度はこうした人間の努力を嘲笑うかのように今日も民家を襲う。取材中も民家を襲う砂層は厚さを増していた。



<文責；登坂征一郎会員>

この度の定例会講話は多忙を極める「府中市浅間山自然保護会」会長山田義夫氏から、荒れた里山府中浅間山を40年間に亘り鎌を持ち鉋を振って竹笹を切り取り、雑草刈り、枯れ枝の伐採、仲間が集い遊歩道整備清掃等山野草の育成保護、四季折々の自然の美しさ、緑豊かで鳥や生き物が生息する絶好の花の山に育てた男の生き様を熱く語って戴きました。参加者一同大変興味深く有意義な時間を提供して戴きました。山田様ありがとうございました。

そうだ、早速今年の春はお弁当持参「府中浅間山自然鑑賞お花見ハイキング」に出掛けよう。（小林務会員記）

「府中浅間山むさし野の自然と花」

府中市浅間山自然保護会会長 山田義夫氏

○浅間山の地理と歴史

府中市北東地域に有る海拔80mの小さな小高い丘の感じの山である。室町時代は古戦場の一つでもあった。戦時中は近くの燃料庫の保守の為の高射砲も設置されていた。

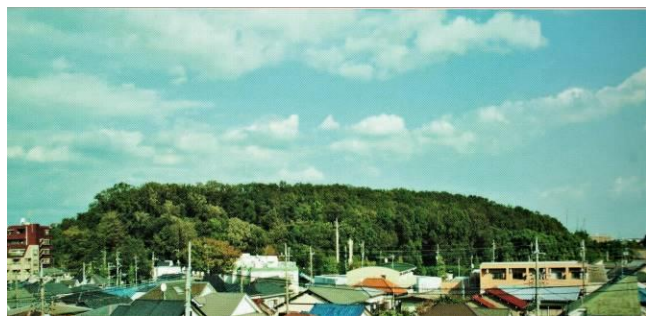


○浅間山とムサシノキスゲ

昔、浅間山は近隣に住む農家にとっては薪の採集、堆肥にする為の落ち葉掃き等生活に必要な里山であり、ムサシノキスゲが咲き乱れた時期も有った。しかし昭和の好景気時代には近隣の人々も浅間山を生活に必要とせず山に入る人も無く山一面が笹竹の生い茂り、山は荒れ放題。そこを目にした山田氏は浅間山の自然と花や生き物を守る。特にムサシノキスゲ、キンラン、ギンランを咲かせ四季折々の美しさに訪れる皆さんが楽しんで頂ける山の環境整備の第一歩を踏み出した。

○浅間山自然保護

1980年頃に地域の皆さんにより浅間山自然保存会が発足し、東京都、府中市との連携を取りながら地道なボランティア活動を続けた結果現在に至る。継続は力なりです。○スライドとPR誌「府中浅間山四季の花々」小冊子「きすげ」浅間山自然保護会作成による写真説明は、身近な草花の名前も数多く覚える事もできました。その他、浅間山の草花の絶滅種、絶滅危惧種、活動の問題点等お話し頂きました。



浅間山全景



浅間山自然保護会のパンフレットから

多摩の台地が古多摩川や他の河川で削られ、小高い丘として残ったもので、堂山（標高80m）、中山、前山の3つの頂をもっています。すぐ近くに多磨霊園、武蔵野公園、野川公園、府中の森公園、武蔵野の森公園があり、散歩やピクニックに好適です。

浅間山には、浅間神社、水手洗（みたらし）神社、人見四郎の墓跡があり、昔は、近隣農家の農用林としての役割も担っていました。戦時中は、一時陸軍に接収され、火薬庫代わりに使われていましたが、戦後、地元に払い下げられ、昭和45年に公園として開放しました。

現在は貴重な自然景観として、浅間山自然保護会、府中野鳥クラブ等のご協力により、保全されています。



武蔵野キスゲ

まいまいずについて

掘削井戸は江戸時代より武蔵野扇状地や砂地など軟弱な崩壊しやすい地域によく分布していた。井戸は、表流水際からの新開拓地へ居住地域を拡大する段階で導入された。

榎原・畝傍山東麓から板井まで、奈良時代に技術的に進歩した。石積井桁ともいう。

人類は、生活の基盤は水辺から離脱することがなかったが、生活に適切な土地柄を見つけては、水辺の補完施設として、各種の井戸掘りの技術を開発し、従来の乏水地域に居住地を拡大した。その一つに「まいまいず井戸」が導入された。

この方法では、地表面の掘削は、直径20～30mの摺りパチ型の穴を掘削し、その穴底の中心部にさらに直径1.5m～2.0mの堅穴を地下水面まで掘り、宙水や不圧地下水を取水する螺旋形式を使用している。

一般に用具は、青竹か、釣瓶、又は麻ひもを用いた。(弥生時代→飛鳥時代の廃寺址から発見された突き井戸(井筒)・井戸桁は木材井・レンガが使用された。)

伊豆・式根島の〈協同井戸〉は岩盤の基礎地質から成っており単純導線まいまいずである。井戸によっては水くみの導線路は二重の螺旋構造に成っていて、往路と復路が異なっていることがある(天秤運搬の文化圏)。

頭上運搬の文化圏は階段式のことが多い。

イタリアのPoso di Sant Patriosionは、二重螺旋階段で往路と復路は別になっており、井戸水面上に渡り橋があり、水くみロバと水利者が渡れるようになっている。

注:「まいまい」はカタツムリの事であり、井戸の形がその殻に似ていることから「まいまいず井戸」と呼ばれる。



<文責；北村克彦会員>

高村弘毅会員



父と戦争

当小島家の先祖は、足利將軍の武將小島掃部助詮茂と伝えられている。代々当地の地主として続き、江戸時代には名主を勤めた家系で、当地方小島一門の総本家にあたり、又代々惣右衛門と名乗っていた。

先々代までは生糸の仲買業を営み、明治初年には、横浜に商館を持ち外国に輸出までして栄えていた。

父、丞助(ジョウスケ)は先代秀政の長男に生まれ、夙に郷校高等科卒業後は青年学校に学ぶ。

昭和14年現役兵にて、近衛高射砲第7連隊に入隊、厳しい教育訓練を受けた後、北海道月寒の陸軍兵器学校に派遣され、同校を卒業後に昭和17年ミッドウェー島攻略部隊として参加するも、作戦失敗のため変更となり、遠くアリリュー・シャン列島のキスカ守備隊となる。独立高射砲22中隊員として、連日のB24・17の銃爆撃と艦砲射撃の中で対空戦を交える。中隊の2/3が戦死。猛烈な戦局の中で死と向かい合う任務を遂行し敵機50数機を撃墜するという成果を上げ、北方面軍司令官より感謝状を受ける。

その後は、千島派遣となりホロムシリ島守備隊となり同島にて終戦を迎える。ソ連軍の管理下となり樺太に連行され抑留生活を送り、強制労働に従事、昭和24年8月九日に一生を得て夢に見た祖国に上陸復員帰郷。

戦後は農業経営に従事。祖国復興に尽力、地域農業の復興に尽くし、その傍ら消防分団長として郷土の防災に貢献。多摩市農協監事を歴任、その後多摩市農協理事に推され組合の健全な運営と組合員の福利増進を図り、又高西寺檀信徒会総代として寺院の守護と宗門隆盛に努力を続けてきた。

平成13年1月3日永眠する。行年83才。合掌。

焦土と化した

故郷に
辿り着いて
夢中で働いた
平和日本を築いた
顔 顔 顔
あゝあの顔で
あの声で
苦労はニョーボと
分け合って
時の流れに
この顔で
あゝこれが戦友会
というものさ

賛；小島丞助書



小島 明会員



◇◇◇ 卒寿を祝う ◇◇◇

卒寿をお祝いしていただいて 堀内陽二会員

過日、定例会の席で思いがけず高村弘毅会長そして増山敏夫副会長から、ご丁寧なお祝いとお言葉をいただきつつ皆様から祝福していただき大変うれしく、また恐縮いたしました。(チョット恥ずかしい気持ちも含め)よくここまで生きてこられたものと改めて我ながら驚いている次第です。それにしても今から20年前70歳(古希)を迎え、同時に21世紀が始まったその時は、よくまあここまで生き延びてこられたものよと感無量の思い出がありました。

それが今や間もなく91歳になろうとしているとは!!わが妻もこの11月で満87歳、そして私達夫婦は本年5月に結婚60周年を迎えることができました。そのことでプロバスクラブの有志の皆様から小生の卒寿のお祝とダイヤモンド婚のお祝いの場を設けていただいた事です。

それにしても実に多くの良き人達との出会いに恵まれて今日まで過ごしてこられたことです。感謝・感謝です。これから先のことはまさに“神のみぞ知る”ことでしょう。



卒寿の祝いの花束を受け取る 増山敏夫副会長の祝いの言葉
堀内陽二会員

◇◇◇ 東京多摩プロバスクラブソング ◇◇◇

作詞 池田 寛
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の
教え導く糧となる
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

◇◇◇ ハッピーバースデイ ◇◇◇

12月に誕生日を迎えられました!



渡辺ますみ会員

渡辺会員; 寅年は私の年 人生最高の年にしたいと思います。

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

左義長までがお正月とやら、おめでとうございます。今年もよろしく。今年は「干支みずのえ寅年」虎は一日に千里を走り抜け、其の日の内に千里駆けもどろという。

我等もコロナを擦り抜け、また会員に寅年生まれの渡辺ますみ会員もおられる事だからこの一年、和気藹々、全力で走り意気健健でありたいと願う。

○餅句会の増山会長始め、面々は右脳を生かし、発句が日常会話となり、益々冴えわたるとお見受けした。句集次号が待たれる。○片倉委員長報告の昨年12月の親睦会、色々工夫して実施、プレゼントの品々は微笑ましく楽しそう。○高村会長の卓話、地球の営みの壮大さ、小さな砂一粒一粒の威力に気づき教えられること今回もだ。○会長山田氏の、40年間も自然保護活動への情熱、クラブの面々も「腰弁当」で参加しよう。金蘭・銀蘭、1cmにもみたない黄や白の可憐な花、茶人と限らず、知る人ぞ知る高さ40cmの楚々とした花。自然保存会のお蔭を露知らず車で通りすがりに見ていた。○まいまいずの世界・歴史・地理学、文化の観点から解説されており、今春、武蔵野のまいまいず見学の予備知識として興味深い。○小島会員の父上のあの激闘・悲惨な大戦でのご活躍、樺太での過酷な抑留生活を潜り抜け、戦後は地本多摩の発展に尽力されたことに肅然とした思いで読ませて頂きました。○堀内会員は、物腰穏やかな紳士で、又姿良い奥様を度々桜ヶ丘駅近くでお見受けする。「共白髪田基の夜長の差向い」言い得て見事、又「の」の二度の韻を踏み等、上出来上出来!!。しかも趣味では無く本格派素晴らしい。「集まれば側に師の有り友の有り」。

さて日本人には虎が親しまれた様で、沢山の絵画・襖絵がある。国宝、二条城二の丸の『竹林群虎図』狩野甚之丞筆、重文、南禅寺『群虎図』狩野探幽筆、串本応挙芦雪館『虎図』長沢芦雪筆、等数々ある。また耳慣れた語句では「虎の尾を踏む事なく、虎の威を借る狐にならず」「虎穴に入らずんば虎子を得ず」「虎を野に放つ」「虎視眈々」等がある。今年も懐の「虎の子」大切に、健康こそ第一と務めてまいりましょう。
＜阪東照子会員記＞